

## めざせ「いきいき 明治っ子」

～ はきはき どんどん ぐんぐん ～

## 子どもたちのいない学校の寂しさ

臨時休校となって早くも3週間が経とうとしています。子どもたちと会えない寂しさが日に日に募ってきました。各ご家庭ではみんな元気に過ごしていることと思いますが、「生活のリズムは崩れていないだろうか」「勉強で分からないところはどやって解決しているのだろうか」「運動不足になっていないだろうか」など、ついつい心配ばかりしてしまいます。

今後の日程はPTAメール等で示したとおりですが、なんとも残念で仕方がありません。ただ、マイナスのことばかり考えてもいいことはありませんので、できるだけプラス思考でこれからの考え、知恵を絞り、みんなで乗り切っていきましょう。

2月の末に、令和2年度入学児童の体験入学が行われました。

大養小学校の松木教諭と秦野教諭から来ていただき、小学校で安心して生活できるように、様々な活動をしました。2人の先生から子どもたちをたくさんほめていただきながら、話し方のルールや言葉づかい、自分の気持ちの伝え方などを分かりやすく教えていただきました。子どもたちも、終始笑顔で、とても満足そうにしていました。自分のやったことをほめられると自己有用感が高まり、またがんばろうという気持ちになりますね。この気持ちを大切に、新しい生活を充実させていってほしいと思います。

4月8日には、この7人の新入生を迎えて、入学式が行われる予定です。これまでのようにあたたかい雰囲気、新入生を受け入れ、仲良く元気に活動してほしいと思います。また、新入生からは、明治小学校に新しい風を吹き入れ、生き生きと活躍してもらいたいです。令和2年度の活動が今からとても楽しみです。一日も早くこの新型コロナウイルス感染症が治まり、正常な活動ができるようになることを祈ります。

そのためにも、手洗い・うがいなどの予防と規則正しい生活で、健康維持に努めましょう。



# 「子どもの行動は大人の生き方の反映」

昔は、世の中の考え方が共通しており、各家庭の「当たり前」もだいたい同じようなものでした。しかし、現在は生活が豊かになり、世の中の価値観が多様になって、各家庭の「当たり前」も多様になってきています。そのように違った「当たり前」の環境で育った子どもたちが、学校で集団生活をするようになり、初めて自分の「当たり前」と異なるものに出合って、いろいろな行動の仕方を学んでいくのです。

真っ白な状態で生まれてきた赤ちゃんは、周りの大人たちが見せる行動の仕方をまねしながらいろいろなことを覚えていきます。各家庭で身につけた「当たり前」が、一般的に許容されるものであれば問題はないのですが、受け入れられないものであるとき、他とのトラブルが多くなり、葛藤も大きくなります。

しかし、各家庭で覚えた「当たり前」が、葛藤なくして集団社会で許容されるようになることはほとんどありません。各家庭で覚えた「当たり前」が一般化・社会化されていく過程は、友達とぶつかり合い葛藤する時期と言ってよいでしょう。この時期の子どもを見守る親は、とかく不安になり、我が子かわいさのあまり冷静さを失い、相手の子や関係する大人たちを非難しがちです。その結果、子どもの健やかな成長（社会化）を妨げてしまうことも少なくありません。

児童期から少年期に当たる子どもは、周りの大人や親の生き方を無意識のうちに学びながら成長していきます。周りの出来事に対して批判的に対応している大人の下で育った子どもは、同じように友達に対して批判的になります。逆に、周りの出来事に穏やかに対応している大人の下で育った子どもは、同じように穏やかに友達に接するようになります。子どもの話を聞かずに自分の考えを押しつける大人、いわゆる厳しすぎる大人の下で育った子どもは、自分より弱い者にそのはけ口を向けたり、怒られないように嘘をついたりするようになります。



全校朝会で生き方について考える

子どもは、身近な大人の考え方や行動の仕方に影響されながら、自分の行動の仕方を学習していきます。それが意識しようとしまいと似てくるところが恐ろしいところです。

昨今、親子や血縁関係者の中での信じられないような殺傷事件が多くなっています。その背景には、おそらく親子関係や家族関係にゆがみがあったのだろうということは推測できます。また、身近な大人や親の生き方にも問題があったであろうということも推測できます。

子育ての過程で、どのように子どもと向き合ってきたか、どのようなモデルとして自分の生き方を子どもに見せてきたか、そのお返し（反映）はそのまま大人や親に返ってきます。

親や近い大人は、「このような子どもになってほしい」「このような大人に育ててほしい」という期待をもって子育てに当たっていることと思います。期待しているような子どもに育てていくには、まず身近にいる大人が学んでほしい生き方のモデルを子どもに見せていくことが必要です。情報過多で価値観の多様化した現在の社会においては、子どもたちは何をモデルにして生きていってよいか分からず、大衆迎合的に安易な行動に走ります。

新型コロナウイルス感染症対策で休校措置が取られ、各ご家庭で子どもと向き合う時間が増えている今をプラスに捉えてみてください。この期間にぜひ大人の生き様を子どもたちの良きモデルとして見せていきましょう。それが大人の責任です。